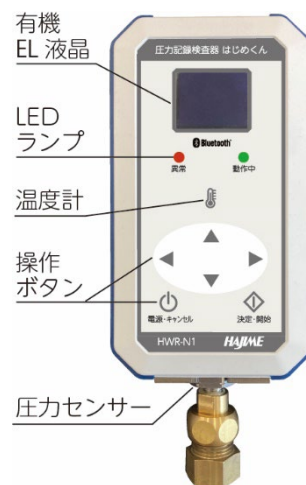


給水給湯樹脂配管・メーターユニットからの水圧検査方法

2022/6/30 (株) ハジメ

配管用<圧力記録>検査器 はじめくん HWR-N1-1 を用いて水栓等の器具付け後の水圧試験を実施・圧力の記録がとれます。この時の注意点についてご案内します

- ① 給水側回路と給湯側回路をバイパスするためには、「逆止弁解除機能付ボールバルブ」を給湯器に用いると検査時だけ解除できて便利です
※使用しない場合は、洗面台等でバイパス配管をしますが、検査後バイパスを元に戻す際の漏れ事故は検査対象外です
- ② メーターユニットから水圧をかける場合、ユニットの逆止弁を解除する方法が、メーカーごとに違いがあるので確認しておきます
- ③ 水圧をかけてから、配管が馴染むまで5時間以上経過してから、検査を実施。あらかじめ複数部屋をまとめて水圧をかけておきたい場合には、オプションのオーリングアダプター+ボールバルブ(HWR-OP11)を推奨



検査モード（給水給湯樹脂配管に対応した水圧検査の例）

判定：内容量 15L まで

検査モード	試験圧力	待機時間	検査時間	合計時間	判定差圧
新築竣工検査	目標圧まで加圧	5分	10分	15分	0.6kPa

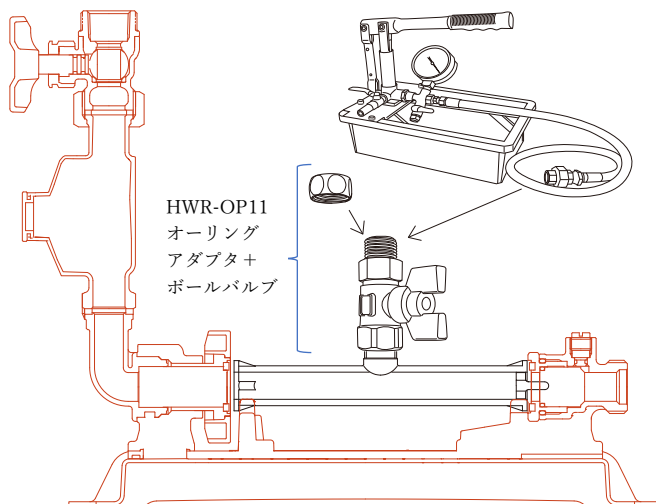
※配管内圧力の安定を促すため、待機時間を設け、待機後に検査を自動的に開始

※検査中に配管変形による圧力低下に、漏れによる圧力低下を加えて判定差圧となった場合、漏洩判定

※配管容量の目安 13A：116m＝15L 16A：73m＝15L 20A：46m＝15L

・前提条件の確認

- a. 上水道・排水工事が完了し、水を使える状態であること
- b. 水栓部で十分なエア抜きが行えること
- c. 検査水圧をかけてから安定まで5時間以上待つことが、できること
※安定待ち時間に、水栓を開けてしまい、圧力が下がった場合は最初からやり直し

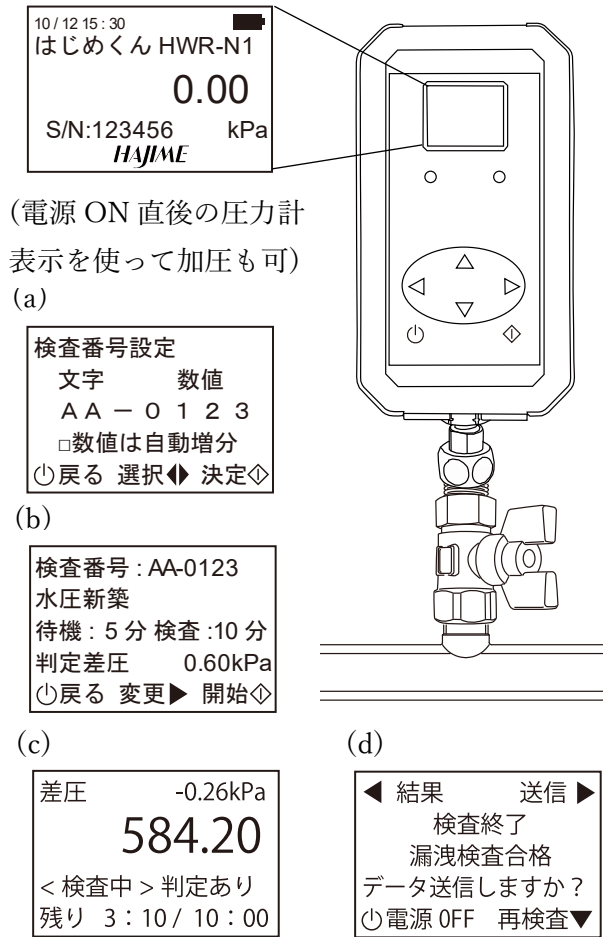


・検査準備

- a. メーターユニットにメーター代用管を取り付け、検査器本体と、手押しポンプを接続。従来の圧力計に並べて検査器を接続も可（逆止弁のサービスポートが使えるタイプは、ここからテストも可能）
- b. メーターユニットの逆止弁を解除する（代用管で解除するタイプや、ボールを抜く等、メーカーごとに違うが、逆止を解除できないと、代用管部分のみの検査となって、配管のテストにならないことがある）
- c. 図の様に接続して、減圧弁の解除も同時に行い、宅内配管から止水栓までの検査範囲となる場合は、止水栓のボールバルブ内部（弁体部分）のエア抜きにも注意し、水を流しながら、止水栓の開け閉めを繰り返してエア抜きを十分にすること
- d. 2系統以上を1回でまとめて検査したい場合は、逆止弁の存在等により、どの範囲が加圧されるか再確認のうえ検査を実施します
- e. 初期加圧で750kPaまで圧力を上げても、5時間経過後は、500~600kPa台に低下するが、検査直前に再度圧力を上げたりしないで、5時間経過後の圧力のままで検査を行うこと
※直前に、再加圧を行った場合、加圧時からさらに5時間経過を要するので注意

・漏洩検査手順

- ① 前ページ参照して、検査配管とユニットに接続
- ② 目標圧力まで手動ポンプで加圧
- ③ バルブを閉め、キャップで確実に密閉しておく
※オーリングアダプター端部まで水位があるのがよい
- ④ 5時間以上待機して、配管を安定させる
- ⑤ 検査器を図の様に取付し、電源入れ、メニューに進む
- ⑥ 設定画面で検査番号(任意)を入力する… (a)
- ⑦ 水圧宅内給水給湯の新築竣工検査モードを選択…(b)
- ⑧ 開始ボタンを押すと、<待機中>の画面になり、待機カウントを開始
- ⑨ 待機が終わると自動的に<検査中>画面に変わる
現在圧力のほか、検査開始からの差圧が表示…(c)
- ⑩ 検査が終わると、結果画面となり、判定結果を表示します…(d)
- ⑪ 不合格の場合は、配管点検後に、↓ボタンを押して再検査を実施します
再検査では、待機時間が短縮され通常の検査よりも短時間で結果が表示されます



○初回検査の結果表示

「漏洩検査合格」	漏れなしと判定し、検査終了。圧力を抜き撤収
「漏可能性／不合格」	検査器周辺の漏れが無いことを確認し、 <u>加圧状態のまま、再検査を実施します</u> (検査終了3分前以後の検知は、漏れ可能性判定)
「漏れ有り／不合格」	

○再検査の結果表示

「漏洩検査合格」	漏れなしと判定し、検査終了。圧力を抜き撤収 ※1回目は外気温や配管の素性による誤判定と考えられる
「漏可能性／不合格」	漏れがあるので圧力を抜き配管の点検後、再度、最初から検査します (検査終了3分前以後の検知は、漏れ可能性判定)
「漏れ有り／不合格」	

- ⑫ データを iPhone・iPad に転送し、現場写真とメール報告 (本体内に蓄積しておき、後ほど転送も可)
- ⑬ 「電源」ボタンを押して電源を切る。次の検査へ進む
※本体メモリーの残量は検査データサイズで変化します(新築竣工検査モードでは最大20件保存可)
メモリーが不足すると、新規検査が出来なくなるので、適宜データ転送をしてください

・注意事項

上記操作において、複数の検査を連続して行うために、オプションのオーリングアダプター+ボールバルブをフロア戸数分用意すると、作業の効率化が図れます

また、検査の最初から、5時間以上の待機までの間についても、本機の圧力記録モードを使って、データで残す事も可能です。不具合があった場合の再検査では、要求される事の多い使い方です